

令和7年度第4回 青梅市工業振興対策審議会 会議録

日時 令和8年3月24日（火）午前9時半開始

場所 青梅市役所議会棟3階 第3委員会室

出席者

委員（敬称略）

林 英夫、池田 政教、井戸 功誠、岩田 雅行、久保 安宏、
渋谷 貴子、吉澤 清志

事務局

渡部地域経済部長、並木商工業振興課長
加納工業振興係長、森田商業労政係長
株式会社価値総合研究所 鴨志田事業開発部長、木村研究員

欠席者

委員（敬称略）

片桐 正博、鎌倉 夏来

傍聴者 なし

次第

1 開会

2 あいさつ

3 協議事項

（1）次期「青梅市商・工業振興プラン」の策定にかかる令和8年度のスケジュールについて

（2）青梅市の地域経済に関する勉強会（仮称）の実施について

4 報告事項

（1）次期「青梅市商・工業振興プラン」の策定にかかるアンケート調査の実施結果（速報版）について

（2）青梅市の地域経済等の現状分析結果について

5 その他

6 閉会

発言要旨

3 協議事項（１）「青梅市商・工業振興プラン」の策定にかかる令和
8年度のスケジュールについて

（事務局説明）

3 協議事項（２）青梅市の地域経済に関する勉強会（仮称）の実施に
ついて

（事務局説明）

委員 勉強会ではどのような話があるのか。

事務局 今年度の業務のなかで、地域経済の現状分析を行っており、これ
を広く知っていただくものを予定している。

事務局 上位計画である総合長期計画において、地域経済の好循環につ
いて言及している。これに基づいて商・工業振興プランの施策の
検討等を行うこととなるため、まずは市の実情を知っていただ
き、今後どう活かしていくかの一助になるものをと考えている。

委員 地域経済循環分析は従前から行われている手法であり、あらた
めて勉強会を行う必要があるのか。

事務局 総合長期計画、商・工業振興プランともに、まだ認知していただ
けていない事業者も多い。次期プランで10年後を見据える際
の基本となる考え方を学んでいただく機会を設けたい。

委員 勉強会参加者のうち、事業者以外の関係者が多くを占めてしま
っては意味がない。いかに事業者に来ていただくかが重要。

事務局 事業者の参加定員は50名程度を想定している。会場のキャパ
シティは80名程度であるため、定員を超えた範囲内で、関係者
の参加を想定している。

委員 勉強会の参加者は別途行われる予定のワークショップのメンバ
ーとは関係するのか。

事務局 勉強会では商工業事業者の参加を、ワークショップでは市民の
参加を想定している。

委員 プラン策定支援業務の受託事業者には、地域経済循環分析の結

果の共有のみならず、その先のことまでお願いしたい。

事務局 地域経済循環分析は次期プランを策定するうえでの基礎情報の一つである。分析の結果を共有したうえで、委員のみなさんから意見をいただき、施策等を考えていく。そうした意味で、客観的なデータを基に現状認識を共有するためのものである。

委員 勉強会のタイトルとして、現状の報告だけと捉えられないように、今後のことをみなさんと考えるために行うというメッセージを伝える必要があると思う。

委員 以前アンケートを取ることに意味がないのではないかと申し上げたが、前回との比較のために取るとのことだったのでやむを得ないかと思った。しかし、結果として回収率は低調であった。アンケートを回答しない人、回答したけれども実情を的確に回答できていない人様々だと思われる。こうした状況にあって、アンケートの結果を参考に今後の方向性を決めるのはいかがか。受託事業者は、他地域の魅力的な施策を知っているはずであり、方向性を決めるにあたって、そうした好事例を出してほしい。

事務局 昨今は根拠に基づく政策立案が強く言われている。アンケートや統計データも含めて、施策の根拠として市の現状を客観的に把握するものと考えている。勉強会では、ベースとなる根拠をご理解いただき、そのうえでみなさんからアイデアをいただいたり、我々もその根拠を基に施策のアイデアを出していく。

委員 アンケートの回答率が低いなか、これをベースにすると困るのではないか。

事務局 今回のアンケートでは、審議会での意見を踏まえて自由意見の設問を多く設けている。今回、自由回答の回答数は多く、具体的な意見をいただいている。生の声が多く集まっており、企画段階で想定したものが得られたものと捉えている。

委員 地域経済循環分析のデータが2022年時点とのことだが、この数年で市内の状況も色々変わっているのではないか。

事務局 2022年時点のデータが2026年1月に公表されたものであり、現時点で最新のものである。

委員 勉強会に出ない人やアンケートに回答しなかった人が意見を言う場があってもよいかと思う。勉強会の場以外に意見集約ができる方法は考えているか。

事務局 勉強会の参加事業者からは意見をいただきつつ、今後の事業活動のヒントを得てもらいたい。また、市民から意見をもらう場としてワークショップを位置付けている。意見の集約方法は今後検討したい。

委員 策定に向けて何をしたらよいか、どういう方向が良いのか、受託事業者が率先して方向性を打ち出してもらいたい。

事務局 まず考えなくてはならないのは目指すべき姿である。会長・副会長含めてご相談しながら、案を事務局で考えたい。

勉強会の企画案における講演内容は、データで見た客観的なものである。実際に市内で事業を営んでいる方々によるパネルディスカッション等をしたうえでご意見をいただければ、今現在の実情を反映した主観的な意見も取り入れられる。

勉強会の全体構成を見直したうえで、あらためて示したい。市内の人の生の声を入れるということをしていきたい。

委員 様々な決定プロセスを変えていかないといけない。会議自体を変えていかないといけない。本当に青梅を変えていくという意思がないとあまり意味がない。

委員 例えば、青梅市のInstagramのアカウントは1万3千人のフォロワーがいる。フォロワーに意見をもらうなど、これを何かに結びつけないといけない。また、バディ事業者に関してもうまく使う方法を考えている。

審議会が集まって次はこうしようという風に動きの遅いことをやっているのは、地方自治体の競争で後れを取る。どこかで決定のプロセスを変えていかなくてはならないと考えている。

事務局 広報の仕方も変えていかなくてはならない。

どういった施策をしていけばよいか具体的な意見を聞きながら、また受託事業者からは他地域の好事例を教えてくださいながら、議論を深め、青梅市に合っている施策を商・工業振興プランに盛

り込みたい。

委員 かつて工場だった場所が住宅になるなど、周辺への配慮から、24時間工場を稼働できない、場所を移したくても移る場所がないといった状況も聞く。
安心して働ける工業用地をつくるなどの方向性を示してもらいたい。

事務局 現在、総合長期計画の中間見直しが予定されており、諸計画との整合性も必要となるため、土地利用については一筋縄ではいかない部分だが、次期プランで産業用地の在り方に言及しておくことは必要である。

委員 審議会で出た意見で条例を変えることが可能か。

事務局 住人の意見、事業者の意見それぞれある。審議会の意見だけで条例を変えるのは難しい。

委員 その場所で操業を続けてきた事業者が居る中で、用途地域の規制ができてきた。

事務局 規制をかけるということは、何かしら理由がある。しかしながら、こうした意見があるということを入れたプランにすることが必要である。

委員 尖った部分のある次期プランにしたい。予算は限られているため、皆の意見を集約しようとするどっちつかずで終わってしまう。尖った施策をすると、どこかで泣く部分もあるだろうが、それによって青梅が変わるのではないか。

事務局 まんべんなく配慮してはいるが、特化していないため、何を目標しているかわからないというのはありがちなところだ。市の予算も網羅的なものになりがちだが、どこに予算を投入するかが重要となる。

委員各位、次期プラン策定にあたって責任をもって変えていこうというお話かと思う。次期プランに盛り込まれていることで、市も予算要求等をしやすくなる。

事務局 勉強会の開催の可否について決議をお願いしたい。

委員一同 （開催することで決定。中身は別途検討。）

報告事項（１）次期「青梅市商・工業振興プラン」の策定にかかるアンケート調査の実施結果（速報版）について
（事務局説明）

報告事項（２）青梅市の地域経済等の現状分析結果について
（事務局説明）

委員 付加価値額のうち、建設業が大きいのが、仮に大規模物流施設の工事費を除くとどうか。

事務局 建設業を除外した場合の試算もしており、仮に大規模物流施設の工事費を除外しても、全産業の労働生産性は全国市区町村中で高い水準となる。

委員 東京都内での位置づけは。

事務局 労働生産性は、東京都平均を下回る。

西多摩８市町村のなかでは羽村市と瑞穂町が突出しているが、これらを除いた中では高い水準である。

委員 新しい年次の暫定データや予測データは出せないのか。

事務局 ２０２２年時点が２０２６年１月に公表されたばかりの最新データとなる。一方で、経済実態調査等、より新たな時点で取れるデータで適宜補完していきたい。

委員 ここ数年で情勢が大きく変わってきていると思う。他の方法はないのか。

事務局 計画をつくるときに、こうしたデータに基づく分析は必要となる。ただしデータだけではつukれないため、さきほどのパネルディスカッションのように、現在のことは今の人に生の声を聞くことが重要となる。

委員 我々が事業者として感じている、将来に向けてこうしなくてはいけない、あるいは将来はこうなるだろう、ということに向けて話し合うことが大事。

過去のデータは参考にするが、過去を調べることに時間をかけすぎては時間が足りなくなる。

事務局 市内企業に勤めている方の所得よりも、市外で就労する市民が勤務先から得ている所得のほうが高いというデータが出ている。市内企業の従業者所得を底上げすることも必要であるし、市の長所に焦点を当ててさらに伸ばしていくことも考えられる。引き続きご意見をいただきたい。

委員 青梅に優秀な企業と人材を引っ張ってきて、優秀な子どもたちを育て、人口が増えていく、ということをねらいたい。そこに向けてどうするかを考えておかななくてはならない。

事務局 そうなれば税収も上がり持続可能な自治体となる。重要なのはその税収をどう使うかであり、力を入れるところ・入れないところをつくるべきという話かと思う。これまでは青梅市は平均的な優等生だったが特徴がなかった。これを脱却していくのが次期プランだと考えている。

委員 市に提案したときに、他地域での導入実績がないと検討してもらえないことがあった。

事務局 前例がないとできないということをやめなければならない。特にスタートアップは実績がないが故に融資等を受けられないようなケースもあるが、出資・投資をして育てていくといった考え方もある。前例がないようなことでも、次期プランへのご意見をいただきたい。

委員 計画に載っていないからできないというわけではないと思う。計画にある・ないに関わらず尖がったことをやればよいと思う。

事務局 審議会からは「わくわくするプランにしたい」との意見をいただいていると捉えている。前例がないわくわくする取組をプランに記載できればと考えている。

5 その他

事務局 次回日程は改めて日程調整の連絡をする。

勉強会でパネルディスカッションをすることとなれば、委員の

方にもお願いする可能性もある。

以 上